

数学科シラバス

学科	電気科	学年	4	教科名	数学	科目名 [単位数]	数学Ⅰ [1単位]	担当者名	因幡 嶺			
教科書・副教材等		007実教/数Ⅰ708 高校数学Ⅰ						授業形態	講義・演習			
目 標		鋭角の三角比の意味と相互関係、三角比を鈍角まで拡張する意義について理解するとともに、鋭角の三角比を利用して2地点の標高差や水平距離、正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求められるようにする。三角比を用いて三角形などの面積を求めたり、空間図形の考察に活用できるようにする。集合や命題に関する基本的な概念を理解し、基本的な命題の証明ができるようにする。						評価の観点 観点①知識・技能 観点②思考・判断・表現 観点③主体的に学習に取り組む態度				
評価観点の規準		観点①知識・技能	サイン、コサイン、タンジェントの意味を理解できる。三角比の相互関係について理解できる。集合に関する基本的な概念を理解できる。命題に関する基本的な概念を理解し、簡単な命題の真偽を調べることができる。									
		観点②思考・判断・表現	日常の事象について、三角比を利用して高さや距離が求められることを考察できる。三角比の相互関係を利用して、1つの三角比の値から残りの三角比の値が求められることを考察できる。集合と命題の関係を考察できる。対偶などを利用して、簡単な命題を証明することができる。									
		観点③主体的に学習に取り組む態度	学んだことを活用し、問題に取り組もうとしている。									
学期	週	単元名	学習内容		到達度目標							
1	1	第3章 三角比 1節 三角比	1 三角形 2 三角比	・三角形の相似を利用して測量ができるなど、身近な応用ができることを理解する。 ・直角三角形の斜辺・対辺・隣辺の比の値が辺の長さによらず一定であることを用いて、三角比が定義できることを理解する。						○	○	○
	2		2 三角比	・直角三角形の3辺の長さから三角比の値を計算する。 ・30°、45°、60°の三角比について、正確に値を求められるようにする。 ・三角比の表を用いて、0°～90°までの三角比の値を読み取れるようにする。						○	○	○
	3		2 三角比							○	○	○
	4		3 三角比の利用	・三角比を利用して直角三角形の辺の長さを計算で求める。 ・三角比を利用して応用問題を解く。						○	○	○
	5		復習問題	・三角比に関する基本的な演習をする。						○	○	○
	6	定期考査	1学期中間考査							○	○	○
	7		4 三角比の相互関係	・鋭角とその余角の三角比の関係を理解する。 ・sin, cos, tanの相互関係を理解するとともに、その関係式を用いて三角比の値の計算で求めることができる。						○	○	○
	8		4 三角比の相互関係							○	○	○
	9	2節 三角比の応用	1 三角比の拡張	・拡張された三角比を、座標平面上に図示して考察することができる。 ・鈍角三角形においても、三角比の相互関係が成り立つことを理解する。						○	○	○
	10		1 三角形の拡張							○	○	○
	11		1 三角比の拡張							○	○	○
	12		復習問題	・鈍角の三角比に関する総合的な演習をする。						○	○	○
	13	定期考査	1学期期末考査							○	○	○
2	14		2 三角比の面積	・三角比を利用して、三角形の面積が計算できる。						○	○	○
	15		3 正弦定理	・正弦定理の意味を理解するとともに、その応用ができる。						○	○	○
	16		3 正弦定理							○	○	○
	17		4 余弦定理	・余弦定理の意味を理解するとともに、その応用ができる。						○	○	○
	18		4 余弦定理							○	○	○
	19		4 余弦定理	・鈍角三角形においても、正弦定理・余弦定理を取り扱うことができる。						○	○	○
	20		復習問題	・正弦定理、余弦定理に関する総合的な演習をする。						○	○	○
	21	定期考査	2学期中間考査							○	○	○
	22		5 正弦定理と余弦定理の利用	・正弦定理、余弦定理に関する演習をする。						○	○	○
	23		5 正弦定理と余弦定理の利用							○	○	○
24		5 正弦定理と余弦定理の利用							○	○	○	
25		5 正弦定理と余弦定理の利用							○	○	○	
26		復習問題	・図形の計量に関する総合的な演習をする。						○	○	○	
27		2学期期末考査							○	○	○	
3	28	第4章 集合と論証 1節 集合と論証	1 集合と要素	・集合に関する用語・記号を理解し、扱うことができる。						○	○	○
	29		2 命題	・命題と集合の包含関係を関連づけて考察することができる。						○	○	○
	30		3 いろいろな証明法	・対偶を利用した証明や背理法による証明などの考え方が理解できる。						○	○	○
	31		3 いろいろな証明法							○	○	○
	32		復習問題	・問題演習を通じて既習事項の定着を図る。						○	○	○
	33		課題学習	・課題を通して、既習事項の理解を深め、関心を高める。 ・主体的に取り組む、数学の良さを認識する。						○	○	○
	34		課題学習							○	○	○
	35	定期考査	学年末考査							○	○	○
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業観察 ・課題プリントの取り組み状況 ・定期考査 										

理科シラバス

学科	電気科	学年	4	教科名	理科	科目名 [単位数]	物理基礎 (2単位)	授業形態	講義・演習・実験	評価の観点				
教科書・副教材等		2 東書 物基002-902 「改訂 新編 物理基礎」									観点①知識・技能	観点②思考・判断・表現	観点③主体的に学習に取り組む態度	
目 標		<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 観察や実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 												
評価観点の規準		観点①知識・技能 基本的な概念や原理・法則などを理解し、観察・実験等の基本的な技能を身に付けている。 観点②思考・判断・表現 問題を見だし見直しをもって実験等を行い、結果を分析し、表現するなど、科学的に探究している。 観点③主体的に学習に取り組む態度 運動とエネルギーに主体的に関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。												
学期	週	単元名	学習内容	到達度目標										
1	1	1編 物体の運動とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方 変位と速度 等速直線運動 合成速度と相対速度 	<ul style="list-style-type: none"> 物体の運動をグラフで表し、変位や速度等の物体の運動の基本的な表し方について理解する。 等速直線運動及びその物体の合成速度や相対速度について理解する。 	○	○	○							
	2	1章 直線運動の世界	<ul style="list-style-type: none"> 速度が変わる運動 	<ul style="list-style-type: none"> 物体が直線上を運動する場合の加速度について理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析できるようになる。 	○	○	○							
	3													
	4													
	5			<ul style="list-style-type: none"> 自由落下運動 鉛直投射、水平投射 	<ul style="list-style-type: none"> 落下など物体の空中での運動について理解し、落下運動について式を使って扱えるようになる。 	○	○	○						
	6		定期考査	まとめて章末確認テスト 1学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を確認テストで確かめる。 前時までの学習状況について自己評価する。 	○	○	○						
	7	2章 力と運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> 力のつり合い 力の合成と分解 	<ul style="list-style-type: none"> 力がつり合う条件を見いだせるようになり、力の合成や分解をベクトルで扱えるようになる。 	○	○	○							
	8			<ul style="list-style-type: none"> 垂直抗力と弾性力 慣性の法則 「運動の変化」と「力」 作用反作用の法則 	<ul style="list-style-type: none"> 直線運動を中心に慣性の法則、運動の法則、作用反作用の法則について理解する。さらに、これらの法則を用いて物体にはたらく力と運動との関係を分析できるようになる。 	○	○	○						
	9			<ul style="list-style-type: none"> 動摩擦力和その性質 静止摩擦力和その性質 空気の抵抗力 水圧と浮力 	<ul style="list-style-type: none"> 摩擦力、圧力、浮力について理解し、それらがはたらくときの運動を分析できるようになる。 	○	○	○						
	10													
	11													
	12													
	13	定期考査	まとめて章末確認テスト 1学期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を確認テストで確かめる。 前時までの学習状況について自己評価する。 	○	○	○							
2	14	3章 力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 仕事 仕事率と仕事の原理 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の定義、及び仕事率について理解する。 	○	○	○							
	15		<ul style="list-style-type: none"> 運動エネルギー 位置エネルギー 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事をする能力としての位置エネルギーと運動エネルギーの表し方について理解する。 	○	○	○							
	16													
	17			<ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギーの保存 力学的エネルギーが保存されない運動 	<ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギー保存の法則とその適用条件について、仕事と関連付けて理解を深め、この法則を用いているいろいろな運動を分析できるようになる。 	○	○	○						
	18	定期考査	まとめて章末確認テスト 2学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を確認テストで確かめる。 前時までの学習状況について自己評価する。 	○	○	○							
	19	2編 さまざまな物理現象とエネルギー	1章 熱	<ul style="list-style-type: none"> 温度と熱運動 熱と物質 熱の移動と保存 	<ul style="list-style-type: none"> 原子や分子の熱運動と温度との関係及び熱がエネルギーであることについて理解する。 実験で得られたデータの分析をもとに、熱容量、比熱及び熱量の保存について理解する。 	○	○	○						
	20			<ul style="list-style-type: none"> 熱と仕事、熱機関と不可逆変化 	<ul style="list-style-type: none"> 熱現象とエネルギーの関係について理解する。 	○	○	○						
	21													
	22			定期考査	まとめて章末確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を確認テストで確かめる。 	○	○	○					
	23			2章 波	<ul style="list-style-type: none"> 波の表し方 横波と縦波 波の重ね合わせ 定常波、波の反射 	<ul style="list-style-type: none"> 波の基本的な性質を理解し、速さ・波長・周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。 波の重ね合わせの原理について学び、作図を通して波の反射や定常波について理解する。 	○	○	○					
24														
25		<ul style="list-style-type: none"> 音波 弦の固有振動 気柱の固有振動 	<ul style="list-style-type: none"> 音波の性質として、うなり、固有振動、共振、共鳴などを学び、身近な楽器の原理について理解する。 		○	○	○							
26														
27	定期考査	まとめて章末確認テスト 2学期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を確認テストで確かめる。 前時までの学習状況について自己評価する。 	○	○	○								
3	28	3章 電気	<ul style="list-style-type: none"> 動いていない電気、動いている電気 	<ul style="list-style-type: none"> 静電気や電流について電子の移動と関連付けて理解する。 	○	○	○							
	29		<ul style="list-style-type: none"> 電流と電気抵抗 直列接続と並列接続 電力と電力量 	<ul style="list-style-type: none"> 実験などを通し、電気抵抗について理解し、合成抵抗を求めることができるようになる。 電力と電力量を計算で求められるようになる。 	○	○	○							
	30													
	31			<ul style="list-style-type: none"> 電流がつくる磁場 発電機のしくみ 直流と交流 	<ul style="list-style-type: none"> 電流による磁界、電磁誘導及び発電の仕組み、直流と交流の違いを理解する。 	○	○	○						
	32	定期考査	まとめて章末確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を確認テストで確かめる。 	○	○	○							
	33	4章 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの変換と保存 原子核のエネルギー 放射線の利用と安全性 エネルギーの利用と課題 	<ul style="list-style-type: none"> 人類が利用可能な様々なエネルギーについて、物理的な視点から理解する。 SDGsなどについて調べ、持続可能な社会の実現について考える。 	○	○	○							
	34													
	35	定期考査	学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習状況について自己評価する。 	○	○	○							
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> 出席状況、行動観察 ワークシート(取り組み状況含む) 定期考査 観察、実験 												

保健体育科シラバス

学科	電気	学年	4	教科名	保健体育	科目名 [単位数]	体育 [2]	授業形態	演習 講義	評価の観点			
教科書・副教材等		現代高等保健体育(50大修館 保体701)									観点①知識・技能	観点②思考・判断・表現	観点③主体的に学習に取り組む態度
目 標		各種の運動の合理的な実戦を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて、継続的に運動ができる資質や能力を育てる。											
評価観点の規準		観点①知識・技能		実践競技でのルールや運営の仕方など、全員が楽しむための調整の仕方があることを理解できる。									
		観点②思考・判断・表現		動きの習得に適した練習方法を選び、話し合い、自分の考えを仲間伝えることで皆が納得することができる。									
		観点③主体的に学習に取り組む態度		一人一人の挑戦を認め、仲間を称え、助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができる。									
学期	週	単元名	学習内容	到達度目標									
1	1	体づくり運動	オリエンテーションおよび体づくり運動	教科の意義、1年間を通じて、授業に対する注意事項を理解する。集団で行動するために必要な集団行動を身に付ける。体力の現状を把握し体力要素の意味を理解して、体力改善に生かす。スポーツテストの種目練習、その体力要素に関する体力を高める運動を通じて、各体力の要素を高める。	○	○	○						
	2				○	○	○						
	3				○	○	○						
	4				○	○	○						
	5	定期考査	1学期中間考査		○	○	○						
	6	フレッシュテニス	フレッシュテニス	ネット型のゲームの特性を理解し、相手の動きや球種に応じた作戦を立て、シングルス及びダブルスのゲームができるようにする。ダブルスに関わる技能としては相手の球種に対応するためのお互いの位置取り方などパートナーとの連携などでの自己の役割を理解し、ゲームで生かせるようにする。個人的技能としては、フォアハンド、バックハンドによるロング、ショート、カットなどの打法、サービス、レシーブなどを身に付けるようにする。	○	○	○						
	7				○	○	○						
	8				○	○	○						
	9				○	○	○						
	10				○	○	○						
	11	体育理論	運動やスポーツでの安全確保	スポーツにおける技術と技能の違い、クローズスキルとオープンスキルの違い、戦術・作戦・戦略の違いについて理解し、説明することができる。	○	○	○						
	12	定期考査	1学期中間考査		○	○	○						
	2	14	体づくり運動	オリエンテーションおよび体づくり運動	教科の意義、1年間を通じて、授業に対する注意事項を理解する。集団で行動するために必要な集団行動ができる。体力の現状を把握し、体力要素の意味を理解して、体力改善のための課題を見つけることができる。	○	○	○					
15		○				○	○						
16		ダンス	創作ダンス	現代的なリズムに乗ってリズムカルに身体を動かし、心身の開放感を味わい仲間と交流することができる。またリズムを変化させたりステップや空間を工夫して踊ることができる。	○	○	○						
17					○	○	○						
18		マット運動	前転 後転 倒立	自己の能力に応じて技を選択、習得し、それらの技を組み合わせで連続技とすることができる。また、技を改善したり、技を新たに加えたりして、演技の内容を豊かにすることができる。	○	○	○						
19					○	○	○						
20		定期考査	2学期中間考査		○	○	○						
21		バドミントン	基本技能 応用技能 審判法 ゲーム	ラケットやシャトルを使うネット型ゲームの特性を理解し、ハイクリア、スマッシュ、ドロップ、ドライブ、ヘアピンなどのフライを使い分け、相手の動きやフライに対応した試合展開ができる。また、ダブルスではルールを理解しパートナーとの連携を工夫し有利に試合展開することができる。	○	○	○						
22					○	○	○						
23					○	○	○						
24	○				○	○							
25	体育理論	スポーツと環境	スポーツと環境問題について考え、スポーツ場面で環境を保護するためにわたしたちができることについて説明することができる。	○	○	○							
26	定期考査	2学期期末考査		○	○	○							
3	28	体づくり運動	オリエンテーションおよび体づくり運動	教科の意義、1年間を通じて、授業に対する注意事項を理解する。集団で行動するために必要な集団行動ができる。体力の現状を把握し、体力要素の意味を理解して、体力改善のための課題を見つけることができる。	○	○	○						
	29				○	○	○						
	30	バスケットボール	個人技術 オフェンス技術 つなぎの技術 ディフェンス技術 ゲーム	ゴール型のゲームの特性を理解し、集団技能や個人的技能を活用して学習段階に応じて作戦を立て、ゲームをすることができる。集団的スキルとしては、速攻、セットオフェンス、マンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス等での自己の役割を理解し、ゲームで生かすことができる。個人的技能としては、パス、キャッチ、ドリブル、シュート、フットワーク、フェイントなどを身に付ける。	○	○	○						
	31				○	○	○						
	32	選択制体育	日本のスポーツ振興	現在に至るまでの日本のスポーツ振興の流れや地域におけるスポーツクラブの状況について理解し、説明することができる。	○	○	○						
	33	選択制体育	バレーボール、バドミントン、フレッシュテニス	左記の3種目から、学年単位で、生徒自身が興味のある種目を選択し、計画、練習、試合、反省など授業を運営できる。	○	○	○						
	34	定期考査	学年末考査		○	○	○						
35	定期考査	学年末考査		○	○	○							

評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 出席状況 授業でも活動状況 自作課題プリントの取り組み状況 定期考査
-------	---

書道 I シラバス

学科	電気	学年	4年	教科名	芸術	科目名 [単位数]	書道 I [2]	授業形態	講義、実習
教科書・副教材等		2 東書/書 I 002-901 書道 I							
目 標	・書の方法や形式、多様性等について理解するとともに、書写能力の向上を図り、表現の基礎的な技能を身につける。 ・書的美感を感受し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考えながら、書的美感を味わうことができるようにする。 ・主体的に書の幅広い活動に取り組み、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。							評価の観点	
評価観点の規準	観点①知識・技能	書の様々な表現方法を理解し、自分の作品にそれを効果的に用いることができる。					観点②思考・判断・表現	観点③主体的に学習に取り組む態度	
	観点②思考・判断・表現	書的美感を理解し、自分の意図に基づいて作品に表現することができる。							
	観点③主体的に学習に取り組む態度	主体的に創作活動に取り組み、書の伝統と文化を通して心豊かな生活を創造しようとしている。							
学期	週	単元名	学習内容	到達度目標	観点①知識・技能	観点②思考・判断・表現	観点③主体的に学習に取り組む態度		
1	1	書写から書道へ	用具用材	・用具用材について適切な使い方が理解できる。	○	○	○		
	2		姿勢・執筆法	・正しい姿勢・執筆法を身につけることができる。	○	○	○		
	3		書写の確認	・書写の用筆法を理解することができる。	○	○	○		
	4		書写から書道へ	・腕全体で筆を運ぶことを学び、作品でそれを実践することができる。	○	○	○		
	5	漢字の書	楷書	・楷書の用筆、字形を理解することができる。	○	○	○		
	6			・楷書の古典の美について理解し、手本を使って楷書の作品を書くことができる。	○	○	○		
	7	中間考査・作品鑑賞	課題作品	・手本を基に、調和のとれた作品を書くことができる。また、それを手本と比べて鑑賞する。	○	○	○		
	8	漢字の書	行書	・行書の特徴について理解できる。	○	○	○		
	9			・行書の用筆、字形について理解し、手本を使って行書の作品を書くことができる。	○	○	○		
	10	漢字の書	隷書	・隷書の用筆法について理解できる。	○	○	○		
	11			・手本を使って隷書の作品を書くことができる。	○	○	○		
	12	漢字仮名交じりの書①	漢字と仮名の調和の理解	・平仮名片仮名の表現について理解できる。	○	○	○		
	13	期末考査・作品鑑賞	課題作品	・手本を基に、調和のとれた作品を書くことができる。また、それを手本と比べて鑑賞する。	○	○	○		
2	14	漢字仮名交じりの書②	漢字と仮名の調和の理解	・学んだことを活かし、手本を使って漢字仮名交じりの作品を書くことができる。	○	○	○		
	15		墨量の変化の特徴の理解	・学んだことを活かし、手本を使って漢字仮名交じりの作品を書くことができる。	○	○	○		
	16		様々な技法について学ぶ	・学んだことを活かし、手本を使って漢字仮名交じりの作品を書くことができる。	○	○	○		
	17			・学んだことを活かし、手本を使って漢字仮名交じりの作品を書くことができる。	○	○	○		
	18	篆刻・刻字	落款と篆刻・刻字	・落款について解説を読み、理解することができる。	○	○	○		
	19			・篆刻・刻字の仕方を理解し、自分自身の落款印を作ることができる。	○	○	○		
	20	中間考査・作品鑑賞	課題作品	・手本を基に、調和のとれた作品を書くことができる。また、それを手本と比べて鑑賞する。	○	○	○		
	21	漢字仮名交じりの書③	紙面構成のバリエーションを学ぶ	・字形・大きさ等の工夫の仕方を理解できる。	○	○	○		
	22			・学んだことを活かし、手本を使って漢字仮名交じりの作品を書くことができる。	○	○	○		
	23	漢字仮名交じりの書④	日常生活で用いられている書を学ぶ	・葉書、便箋の様式を理解できる。	○	○	○		
24	・葉書、便箋の様式を理解し、丁寧に葉書等を書くことができる。			○	○	○			
25	・年賀状、祝儀袋等の書き方を理解できる。			○	○	○			
26	・年賀状を書くことができる。			○	○	○			
27	期末考査・作品鑑賞	課題作品	・手本を基に、調和のとれた作品を書くことができる。また、それを手本と比べて鑑賞する。	○	○	○			
3	28	仮名の書①	仮名の成立について学ぶ	・仮名の特徴について理解することができる。	○	○	○		
	29		仮名の筆使いについて学ぶ	・仮名の用筆、字形について理解し、手本を使って作品を書くことができる。	○	○	○		
	30		連綿について学ぶ	・仮名を結ぶ連綿線を理解し、手本を使って作品を書くことができる。	○	○	○		
	31			・手本を使って作品を書くことができる。	○	○	○		
	32	仮名の書②	変体仮名について学ぶ	・変体仮名の特徴を理解することができる。	○	○	○		
	33		草書について学ぶ	・草書の用筆法について理解することができる。	○	○	○		
	34		・草書の表現法を用いて、手本を使って作品を書くことができる。	○	○	○			
35	学年末考査・作品鑑賞	課題作品	・手本を基に、調和のとれた作品を書くことができる。また、それを手本と比べて鑑賞する。	○	○	○			

評価の方法	以下の項目について、3観点に基づき評価する。 ・出席状況 ・授業での活動状況、手本を使った作品制作 ・課題作品の取り組み状況 ・定期考査
-------	--

電気科シラバス

学科	電気	学年	4	教科名	工業	科目名 [単位数]	課題研究 [3単位]	授業形態	調査・設計・製作・講義	
教科書・副教材等		自作テキスト								
目 標		工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。								
評価観点の規準		観点①知識・技能	生徒の興味・関心、今まで学習した専門教科などに応じて個人またはグループで適切な課題が設定されているか。					評価の観点 観点①知識・技能	観点②思考・判断・表現	観点③主体的に学習に取り組む態度
		観点②思考・判断・表現	計画をたて制作や調査・研究などを行い、結果を整理・発表し、研究を深めているか。							
		観点③主体的に学習に取り組む態度	自ら学び自ら考え主体的に判断し、問題をより良く解決する資質や能力を育成しているか。							
学期	週	単元名	学習内容	到達度目標						
1	1		課題の設定	これまで学習した内容を生じた電気・電子の要素を含み、新しい知識や技術を学びながら製作し完成させられる作品						
	2			・自分の興味・関心がある物						
	3			・1年間で製作可能な題材						
	4		年間作業計画作成	・年間作業計画表を作成する						
	5			・発表時期を考慮して完成予定						
	6	定期考査	1学期中間考査						○	○
	7		調査・研究・資料収集	・各分野の工業技術や伝統産業 ・産業の中の工業など、広く人間社会と工業の関係をとらえる ・工業技術の歴史を調査 ・産業社会の成熟度と工業技術の関係を明らかにする ・職業人として生きるための幅広い調査と研究が考えられる。 ・情報収集能力としてのコンピュータ利用					○	
	8			・目的に対応した回路設計ができる。						
	9			・規格を調べ必要な部品を購入できる。						
	10			・回路図に従い配線ができる。						
	11			・材料を目的にあわせて加工できる。						
	12			・動作しない場合に原因を見つけることができる						○
	13	定期考査	1学期期末考査							○
2	14		設計・部品発注・製作	・目的に対応した回路設計ができる。						
	15			・規格を調べ必要な部品を購入できる。						
	16			・回路図に従い配線ができる。						
	17			・材料を目的にあわせて加工できる。						
	18			・動作しない場合に原因を見つけることができる						
	19			・工作機械を安全に操作できる。						
	20	定期考査	2学期中間考査							○
	21		設計・部品発注・製作	・目的に対応した回路設計ができる。						
	22			・規格を調べ必要な部品を購入できる。						
	23			・回路図に従い配線ができる。						
24			・材料を目的にあわせて加工できる。							
25			・動作しない場合に原因を見つけることができる。							
26			・工作機械を安全に操作できる。							
27	定期考査	2学期期末考査							○	
3	28		プレゼンテーションソフトの活用	・プレゼンテーションソフトの機能を理解させ、実際の発表原稿を作成する。						
	29			・効果的な発表方法について検討し、修正を加える。						
	30									
	31									
	32									
	33									
	34		研究発表		テーマを通じて得た自主性・創造性・問題解決力・実践力を下に発表をする。					○
	35	定期考査	学年末考査							○

評価の方法	出席状況 授業態度 課題への取り組み姿勢 発表会への取り組み
-------	---